

株主の皆様とのコミュニケーションツール

クラレ通信

第142期 2022年1-6月期 報告書

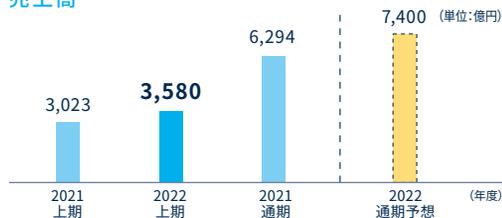
2022年1月1日～2022年6月30日 証券コード:3405

CONTENTS

- 01 | 株主の皆様へ・決算ハイライト
- 05 | Pick up - コーポレートタグライン
- 06 | クラレのSustainability
- 09 | クラレグループトピックス
- 10 | 株式情報
- 10 | お知らせ
- 巻末 | 会社概要

決算ハイライト

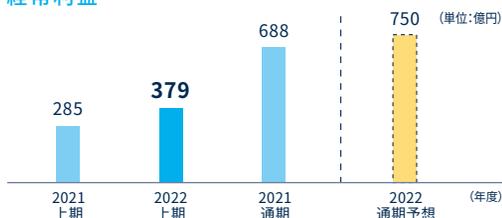
売上高



営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



各種前提

- ・2021年度 上期：米ドル108円、ユーロ130円、国産ナフサ41千円／kl
- ・2021年度 通期：米ドル110円、ユーロ130円、国産ナフサ48千円／kl
- ・2022年度 上期：米ドル123円、ユーロ134円、国産ナフサ72千円／kl
- ・2022年度 通期予想：米ドル127円、ユーロ135円、国産ナフサ78千円／kl

- 決算ハイライト (P.1～P.4)の金額表示は、億円未満を四捨五入しています。2022年度の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しているため、2022年度の各数値については当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

株主の皆様へ

2022年度 第2四半期について

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2022年度第2四半期連結累計期間(2022年1月1日～2022年6月30日)における世界経済は、各国での経済活動の制限緩和に伴い、総じて回復基調が続きました。一方で、世界的な半導体不足や物流の混乱、インフレの加速および政策金利の上昇、ロシアのウクライナ侵攻の長期化や、中国でのゼロコロナ政策に伴うロックダウンなどにより、景気の先行きは不透明感が増しました。そのような中、当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高は前年同期比557億円増の3,580億円、営業利益は77億円増の381億円、経常利益は94億円増の379億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は125億円増の242億円となりました。第2四半期連結累計期間としては、売上高は過去最高を更新、各利益とも過去最高水準となりました。

2022年度通期の連結業績予想につきましては、第2四半期累計期間の業績ならびに昨今の経済情勢等を踏まえ、2022年5月12日の第1四半期決算公表時から売上高を600億円増の7,400億円に変更いたします。各利益については変更せず、営業利益780億円、経常利益750億円、親会社に帰属する当期純利益450億円といたします。

クラレグループは「世のため人のため、他人(ひと)のやれないことをやる」という使命のもと、創立100周年と

なる2026年度に向けた長期ビジョン『Kuraray Vision 2026』で掲げたありたい姿である「独自の技術に新たな要素を取り込み、顧客、社会、地球に貢献し、持続的に成長するスペシャリティ化学企業」を目指しています。

この長期ビジョン『Kuraray Vision 2026』の実現に向けて、2022年度より新たな中期経営計画「PASSION 2026」をスタートさせました。「PASSION 2026」では、①機会としてのサステナビリティ、②ネットワーキングから始めるイノベーション、③人と組織のトランスフォーメーションの3つの挑戦を設定しています。これらへの取り組みを通じて事業ポートフォリオの高度化を進め、創立100周年を迎える2026年度には、売上高7,500億円、営業利益1,000億円を目指します。

また、当社は株主に対する利益配分を経営の重要課題と位置付け、中期経営計画「PASSION 2026」では、親会社株主に帰属する当期純利益に対する総還元性向35%以上、かつ1株につき年間配当金40円以上を基本方針としています。中間配当金は期初に予定しておりました1株当たり21円とさせていただきます。また、当第2四半期連結累計期間に942万株(100億円)の自己株式の取得を行いました。当期の年間配当金につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益450億円を前提に期初公表通り1株当たり42円とさせていただきます。予定です。

株主の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 川原 仁



財務情報

連結損益計算書(要約)

(単位:億円)

	2022年度上期	2021年度上期
売上高	3,580	3,023
営業利益	381	304
経常利益	379	285
親会社株主に帰属する四半期純利益	242	117
●各種前提		
円/米ドル	123	108
円/ユーロ	134	130
国産ナフサ価格(千円/kl)	72	41

連結貸借対照表(要約)

(単位:億円)

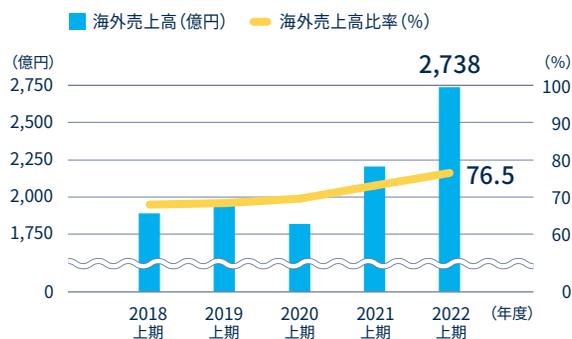
	2022年6月末	2021年12月末
資産の部		
流動資産	5,011	4,702
固定資産	6,844	6,208
資産合計	11,855	10,910
負債の部		
流動負債	2,360	2,195
固定負債	2,919	2,919
負債合計	5,279	5,114
純資産の部		
株主資本	5,272	5,201
その他の包括利益累計額	1,090	399
その他	214	196
純資産合計	6,577	5,796
負債および純資産合計	11,855	10,910

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

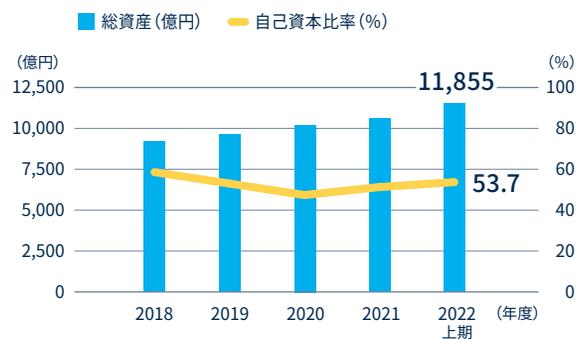
(単位:億円)

	2022年度上期	2021年度上期
営業活動によるキャッシュ・フロー	214	211
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 273	△ 326
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 312	△ 328

海外売上高推移



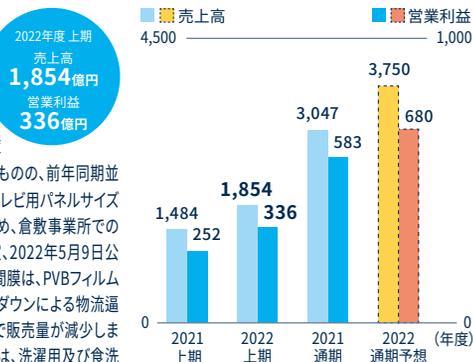
総資産・自己資本比率



セグメント別の概況

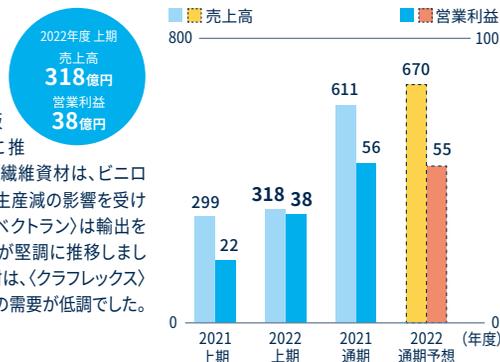
ビニリアセテート

ポパール樹脂は、米国子会社の一部生産設備の不具合による停止や物流混乱の影響を受け販売量が減少しました。光学用ポパールフィルムは、液晶パネルの在庫調整による影響が懸念されたものの、前年同期並みの出荷となりました。また、テレビ用パネルサイズ大型化のニーズに対応するため、倉敷事業所での設備投資(2024年央稼働予定、2022年5月9日公表)を決定しました。高機能中間膜は、PVBフィルムで自動車生産減や中国ロックダウンによる物流逼迫の影響を受け、前年同期比で販売量が減少しました。水溶性ポパールフィルムは、洗濯用及び食洗器用個包装洗剤向けの販売が拡大しました。EVOH樹脂(エパール)は、好調な食品用途が自動車用途の減少を補い、全体として販売量は増加しました。



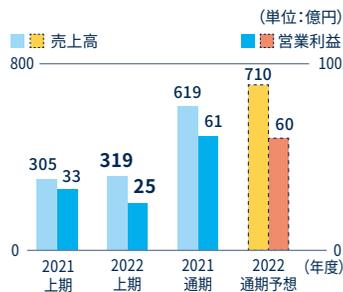
繊維

人工皮革(クラリーノ)は、ラグジュアリー用途を中心に販売が堅調に推移しました。繊維資材は、ピロロンが自動車生産減の影響を受けましたが、(ベクトラン)は輸出を中心に販売が堅調に推移しました。生活資材は、(クラフレックス)で外食産業の需要が低調でした。



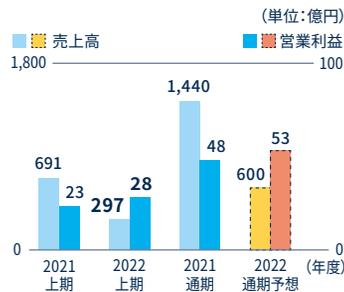
イソプレン

イソプレン関連は、ファインケミカル、エラストマーともに需要は堅調だったものの、一時的な原料調達難の影響を受け販売量が減少しました。耐熱性ポリアミド樹脂(ジェネスタ)は、自動車向けに半導体などの部材不足や中国ロックダウンの影響を受け販売量が減少しました。電気・電子デバイス向けは、需要は堅調だったものの、一部生産設備不具合による生産減や物流混乱の影響を受け販売量が減少しました。



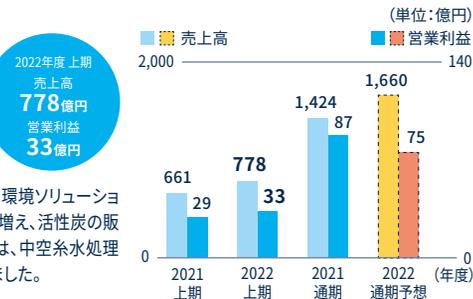
トレーディング

繊維関連事業は、スポーツ衣料等が好調に推移しました。樹脂・化成関連事業は、アジア市場で順調に推移しました。



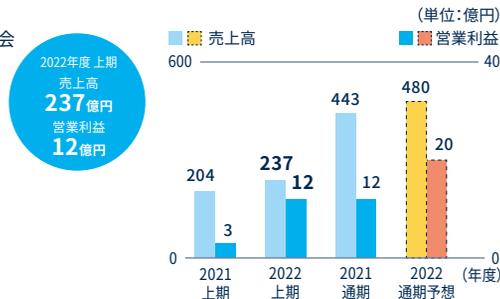
機能材料

メタクリルは、一時的な原料調達難や中国ロックダウンの影響を受け販売量が減少しました。メディカルは、欧米を中心に歯科材料の需要が旺盛で、販売が拡大しました。環境ソリューションは、欧州を中心に需要が増え、活性炭の販売が拡大しました。アクアは、中空糸水処理膜の需要が堅調に推移しました。



その他

国内関連会社の販売が回復し、増収増益となりました。



- ⇒ 上記セグメントの業績とは別に、全社連結消去および調整がございます。
- ⇒ 2022年度より、以下の会計基準の適用、セグメント区分の変更などがあります。
 - 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等の適用。●一部の内部取引利益の消去について、各セグメントおよび全社への配分方法の変更。
 - アクア事業のセグメント区分を「その他」から「機能材料」に変更。
- ⇒ トレーディングセグメントの2022年度売上高が2021年度に比べ大きく変動していますが、これは主に、トレーディングセグメントにおける代理人取引の売上高の計上額について、「収益認識に関する会計基準」等の適用により、取引総額から純額へと変更することによるものです。

Pick up

コーポレートタグライン 「Possible starts here」を策定

中期経営計画「PASSION 2026」のスタートに合わせ、コーポレートタグラインを新たに策定し、当社創立記念日にあたる6月24日よりグローバルな展開を開始しました。

当社は1926年の創立以来、事業を通じた社会的課題の解決と新たな価値の創造に挑戦してきました。「Possible starts here」には、今日に至るまで変わることのないこの企業姿勢とともに、より良い未来のために、クラレグループを起点として、お客さまやパートナーの皆さまと価値を共創していきたいという強い想いを込めています。

創立100周年を迎える2026年のありたい姿を示した長期ビジョン『Kuraray Vision 2026』および新たに策定したサステナビリティ長期ビジョンのもと、2022年度からスタートした5か年の中期経営計画「PASSION 2026」では、社員一人ひとりが「情熱」を持ち、想いを一つにしてビジョンの実現を目指しています。

今後も、当社はこのタグラインに込めた想いと価値観をクラレグループ全体で共有し、新たな価値の共創と社会的課題の解決に向け、一層の使命感をもって取り組んでいきます。

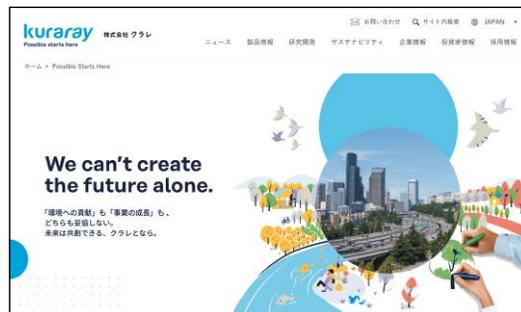
1. タグライン付きロゴマーク

kuraray
Possible starts here

2. 特設サイト： クラレとともに「サステナブルな未来」へ。

タグラインの展開に合わせて、特設サイトをオープンしました。タグライン、キービジュアル、ブランドストーリーのご紹介、中期経営計画「PASSION 2026」関連資料やクラレの会社情報ページへのリンクなどを掲載しています。

特設サイトは、右記QRよりご覧いただけます。
<https://www.kuraray.co.jp/possiblestartshere>



クラレの Sustainability サステナビリティ VOL.2

～自然環境と生活環境の向上を目指して～



サステナビリティウェブサイトは右記QRよりご覧いただけます。
<https://www.kuraray.co.jp/csr>



当社は「サステナビリティ長期ビジョン」を策定し、サステナビリティを積極的に推進することを掲げました。このパートではマテリアリティに貢献する「自然環境・生活環境貢献製品」および具体例として〈エパール〉をご紹介します。

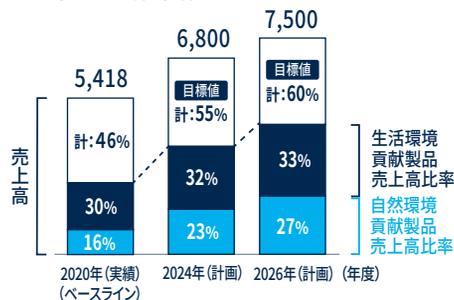
自然環境・生活環境貢献製品とは？

「PASSION 2026」では、従来の経済的価値に加え、社会・環境価値を重視した事業ポートフォリオへのシフトを推進するため、欧州の化学メーカーを中心に導入が進む、PSA^{※1}という評価システムを採用しました。このPSAは、WBCSD^{※2}が全ての企業がセクターに関わらず、持続可能な製品ポートフォリオの構築を可能とするために開発したシステムです。化学産業向けには専用のガイドラインが作られており、当社グループは、この専用ガイドラインに完全準拠したクラレPSAシステムを構築しました。当社製品、用途、取扱い地域の組み合わせを一つの評価単位とし、基本的事項・社会や規制の動向・ベンチマーク製品との性能比較などの基準により5段階評価し、上位2ランクの製品を自然環境・生活環境貢献製品としています。これらの貢献製品の売上高比率を2020年の46%から2026年には60%へと高めていくことで、事業ポートフォリオを継続的に高度化させていきます。

※1 ポートフォリオサステナビリティアセスメント ※2 持続可能な開発のための世界経済人会議

売上高／目標指標

(億円)



「PSA」については、右記QRよりご覧いただけます。
<https://www.kuraray.co.jp/csr/report2022/psa>



クラレグループの自然環境・生活環境貢献製品の事例

自然環境の向上

アスベスト代替

●ピニロン

セメント建材の
耐久性を向上、
長寿命化に貢献

バイオ・リサイクル原料

- バイオマス由来の液状ゴム
- ポリエステル〈エコトーク^{※1}〉
- リサイクル原料ベースの人工皮革〈クラリーノ〉



水・大気の浄化

- 活性炭
- 中空糸膜



食品包材として
「容器の軽量化」
「食品の長期保存」に貢献

物流の負荷低減/ フードロス削減

- EVOH樹脂〈エパール〉
- バイオマス由来のガスバリアフィルム〈PLANTIC〉



生活環境の向上

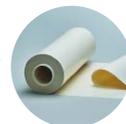
歯科医と患者の負荷軽減

- 歯科材料 治療時間の短縮

通信の高速化

- 液晶ポリマーフィルム〈ベクスター〉

高周波特性を備え
通信の高速化に貢献



EVの軽量化

- 耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉

※1 CO₂削減効果の高い製法で作られた製品や、生活・作業環境の改善に役立つ製品につけられるブランド名称

次ページ 自然環境・生活環境貢献製品の〈エパール〉のご紹介



キーパーソン
に聞く



自然環境と生活環境の向上に寄与する
クラレの製品

EVOH樹脂〈エバール〉 フードロスの削減

世界では食料生産量の3分の1に当たる約13億トン^{*1}の食料が毎年廃棄されており、これは飢餓に苦しむサハラ以南のアフリカ地域の食料生産量に匹敵します。食の不均衡、大量の廃棄物発生につながるフードロス問題。世界が直面するこの喫緊の課題解決に貢献する素材として、高いガスバリア性（気体遮断性）を有するEVOH樹脂〈エバール〉に注目し、ビニルアセテート樹脂カンパニーの渡邊カンパニー長にその特徴や今後の展望について伺いました。

※1 出典：国連食糧農業機関（FAO）「世界の食料ロスと食料廃棄（2011年）」

執行役員 ビニルアセテート樹脂カンパニー長 兼 ビニルアセテート樹脂カンパニーポバール樹脂事業部長
渡邊 知行

● 〈エバール〉がどのようにフードロス削減に貢献するのでしょうか。

フードロスの原因の一つとして、販売される品数が増加する中、店での売れ残りや消費・賞味期限前の返品などにより、まだ食べられる食品が多く廃棄されていることが挙げられます。この問題を解決するアプローチの一つに「パッケージのバリア化」があります。

〈エバール〉は当社が1972年に世界で初めて開発・事業化したエチレン-ビニルアルコール共重合体（EVOH）樹脂で、プラスチックとしては最高レベルのガスバリア性（汎用ポリエチレンの約10,000倍）を有します。そのため、食品包装材として使用することで、食品の腐敗・劣化要因となる酸素の包装材料内への侵入量を最小限に抑え、食品の長期保存や賞味期限の延長につながります。その結果、捨てられる食品を減らすことができるのです。

● 主な用途について教えてください。

高いガスバリア性を有するため、食品包装を中心に、医薬品・化粧品の容器などに使用されています。また軽量化や成形加工を容易にしながら厳しい燃料ガスの排出規制に対応できるため、自動車ガソリンタンクへも採用されています。さらに、壁紙や床暖房用パイプ、冷蔵庫の真空断熱板など住宅・生活関連分野などへも展開しており、世界的に需要が拡大しています。





解決したい課題

フードロスが引き起こす
食の不均衡と環境汚染



クラレの答え

〈エパール〉で食品の消費・
賞味期限を延長し、
フードロス削減に貢献



●中期経営計画「PASSION 2026」における戦略について教えてください。

SDGsの目標12「つくる責任、つかう責任」のターゲットの1つとして、食品ロスを減少させることが明記されており、この社会課題への関心は世界的に高まっています。課題解決に貢献する素材として、〈エパール〉の需要も拡大しており、安定供給体制のさらなる強化が成長のカギとなります。現在、〈エパール〉は日本、アメリカ、ベルギーの3拠点で生産していますが、経済発展が急速に進むアジアにおける新プラント建設の検討を進めます。

加えて、新たな需要を確実に取り込んでいくことも重要です。大手食品メーカーなどのグローバルブランドは、2030年までに使用する包装材料の100%リサイクル化をコミットメントとし新たな開発を推進しています。この度EUにおいて軟包装材におけるEVOH層比率が5%以下であれば「リサイクル可」とする業界基準が設定され、〈エパール〉のハイバリア銘柄の使用を中心とした新規包材開発が加速しています。〈エパール〉を含む多層構造体が回収・選別された場合、その配合が5%未満であればEUのモノマテリアル基準に適合し、リサイクル可能とされたため、他素材からの置き換えが見込まれます。このようにサーキュラーエコノミーの観点からの提案を加速していきます。

また当社は、多様化するバリア材料へのニーズに応える製品として、バイオマス由来のガスバリアフィルム〈PLANTIC〉を保有しています。このようなサステナブルな素材の用途開発や提案を強化していき、事業の拡大を通じて自然環境と生活環境の向上に寄与します。

●バイオマス由来のガスバリアフィルム〈PLANTIC〉についてもう少し詳しく教えてください。

〈PLANTIC〉は、オーストラリアの産学連携研究から生まれたでんぷんを主成分とした新しいバリアフィルムです。バイオマス由来でありながら、ガスバリア性が高く、包装材として主に肉や魚などの生鮮食品の鮮度保持を可能とするため、フードロス削減に貢献します。加えて、でんぷんを熱水で溶かすことで分別やリサイクルがしやすく、コンポスト(堆肥)化も可能です。世界的な環境対応型包装材への需要の高まりを受け、バイオマス由来のガスバリア材のニーズが拡大していることから、グローバルなマーケットの開拓と事業拡大を加速していきます。



TOPICS

2022年1-6月のクラレグループの
主なニュースをご紹介します。

2022年 **4**月

新企業CM「きっと明日も、ハレ、クラレ。」のオンエアを開始



kuraray

俳優の高橋文哉さん、sumika書き下ろし楽曲を起用。メインコピーは「きっと明日も、ハレ、クラレ。」当CMキャンペーンでは、クラレグループの素材や技術が身近な所で役立っていること、また当社グループ社員が日々可能性を信じ、素材や技術で社会に貢献するため挑戦を続ける、そんな企業であると知ってもらえることを願っています。シリーズ第1弾「旅立ち篇」では、スマートフォンやタブレットの素材を通して、学生とクラレ

社員の可能性や未来へ一歩ずつ進んでいく姿を描いています。8月19日よりシリーズ第2弾「チャレンジ篇」を放映しています。

● Photo: CMキービジュアル

詳しくは右記QRよりご覧いただけます。
https://www.kuraray.co.jp/news/2022/220401_4



2022年 **5**月

光学用ポリアルフィルム生産設備の増設決定を公表

液晶ディスプレイ(LCD)の基幹部材である偏光フィルムのベースとして、光学用ポリアルフィルムのさらなる需要拡大が見込まれることから、当社は生産設備の増設を決定し公表しました。液晶テレビの大型化の進展に伴い、今後も液晶パネルの面積の拡大が続く見通しです。今回増設する新系列は、大型偏光フィルムの生産効率向上に貢献する広幅タイプのフィルムの生産が可能で設備になります。

詳しくは右記QRよりご覧いただけます。
https://www.kuraray.co.jp/news/2022/220509_2



2022年 **5**月

防滑繊維<フィレスト>を開発

防滑性を有する極細ナイロン繊維<フィレスト>を開発しました。ナイロン特有の柔らかな風合いと高いグリップ性を併せ持ち、衣類やスポーツ用品等に用いることで身体へのフィット感を高めます。また、熱水処理だけでマイクロファイバー化できるため、一般的なアルカリ

処理工程と比較して、CO₂排出量を約4割削減*できます。

※ 公的データによる社内算出

詳しくは右記QRよりご覧いただけます。
<https://www.kuraray.co.jp/news/2022/220518>



2022年 **5**月

「第54回 日化協技術賞 技術特別賞」を受賞

優れた透水性と濁度耐性を有し、排水の効率的な再利用を可能にする水処理用中空糸膜モジュール<ピューリア>GLの開発と工業化において、「第54回 日化協技術賞」の技術特別賞を受賞しました。世界の水不足、水質汚染などの社会課題解決に向け、さらなる貢献が期待できます。

● Photo: クラレ倉敷事業所に設置した<ピューリア>GL

詳しくは右記QRよりご覧いただけます。
<https://www.kuraray.co.jp/news/2022/220523>



2022年 **6**月

環境対応型の人工皮革<クラリーノ>が、LenovoのThinkPadシリーズ「ThinkPad Z13」に採用

ペットボトルからのリサイクル原料を使用した人工皮革<クラリーノ>が、レノボ・ジャパン合同会社の、ノートブックPC「ThinkPad Z13」の天板に採用されました。<クラリーノ>が、レノボのノートブックPCに採用されるのは初めてです。

● Photo: LenovoのThinkPad Z13

詳しくは右記QRよりご覧いただけます。
<https://www.kuraray.co.jp/news/2022/220624>



その他クラレグループトピックス(2022年1-6月)

- ・新たなESG指数の構成銘柄に選定
- ・「スポーツ&アウトドア オンライン展示会2022」を開催
- ・歯科用セメントキット<パナビア ベニア LC>を発売
- ・人工皮革<クラリーノ>を使用した専用グローブの提供で活動を支援している女子カーリングチーム「ロコ・ソラーレ」がクラレ本社を訪問
- ・クラレレポート2022を発行〜編集とデザインを刷新し、中期経営計画「PASSION 2026」における取り組みを分かりやすく紹介〜

詳しくは右記QRよりご覧いただけます。
<https://www.kuraray.co.jp/news>

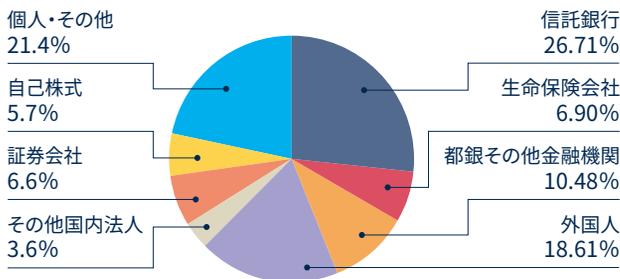


株式情報 (2022年6月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
1,000,000,000株	354,863,603株	94,502名

株主構成 (持株比率)



投資家向けページのご案内



投資家情報

当社Webサイト内の投資家向けページでは、決算情報の提供に加え、決算説明会や株主総会の模様の動画配信などタイムリーに情報を掲出しています。ぜひご覧ください。

<https://www.kuraray.co.jp/>

クラレ

検索

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031 (受付時間 土・日・祝祭日を除く9時~17時)

お知らせ

2023 CALENDAR

「2023年版クラレグループカレンダー」

プレゼントのご案内 **応募締め切り11月30日(水) (当日消印有効)**

2022年6月末時点の株主様のうち、希望されるすべての方にクラレグループカレンダーをプレゼントいたします。

2023年のカレンダーは、新たに策定したタグラインPossible starts here — 新たな可能性は、ここから始まる — をテーマに、挑戦者たちが成し遂げた人類史上に残る偉業を、ゆかりの地をめぐるながら紹介していきます。

好奇心にあふれ大きな夢を抱き、常識を覆してきた先人たちにとって、ここはまさに、新たな可能性が始まった地。自然が創り出した雄大な風景や美しい街並みから奇跡のような功績に思いを馳せ、その足跡をたどります。

カレンダーをご希望の株主様は、クラレ通信に添付されている応募はがきにお名前やご住所等の必要事項をご記入のうえ、**11月30日(水)**までにご投函をお願いいたします。(当日消印有効)

ご応募に関する注意事項

- 応募締め切りは**11月30日(水)**といたします。(当日消印有効)
締切日以降のご応募につきましてはお受けできませんので、あらかじめご了承ください。
- カレンダーのお届け時期・時間指定はできません。
- はがきを紛失した場合、再発行はできません。
- お送りするカレンダーは株主様1名につき1部とさせていただきます。
- 発送は日本国内に限らせていただきます。

お届けについての目安

- 11月上旬より、順次発送いたします。
- 諸般の事情により、予告なく発送が遅れる場合がございます。

PREMIUM GIFT

2022年12月末株主優待(オリジナルカタログギフト)についてのご案内

2022年12月末時点の株主名簿で1,000株以上保有の株主様に当社グループの製品を使用した商品などを掲載したオリジナルカタログギフトを贈呈します。なお、カタログギフトは2023年3月末の発送を予定しております。

クラレは世界的な
ESG投資指数の
構成銘柄に
選定されています。



FTSE4Good



FTSE Blossom
Japan Index



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

2022 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数



MSCI社による株式会社クラレの
MSCIインデックスへの組み入れ、
株式会社クラレによるMSCIのロゴ、
商標、サービスマークまたはイン
デックス名の使用は、MSCIまたは
その関係会社による株式会社クラレ
へのスポンサーシップ・宣伝・販売
促進を企図するものではありません。
MSCIインデックスはMSCIの独占的
財産であり、その名称、インデックス、
ロゴは、MSCI社およびその関連会社
の商標またはサービスマークです。

会社概要

社名

株式会社クラレ

英文社名

Kuraray Co., Ltd.

設立

1926(大正15)年6月24日

資本金

890億円(2021年12月31日現在)

本社所在地

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-4

常盤橋タワー

TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005

Webサイト

<https://www.kuraray.co.jp/>

クラレグループの主な事業

ビニルアセテート

ポパール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、

EVOH樹脂・フィルムの製造・販売

イソブレン

イソブレン系化学品、

ポリアミド樹脂の製造・販売

機能材料

メタクリル樹脂、メディカル関連製品、

炭素材の製造・販売、

水処理用高機能膜・システムの製造・販売

繊維

人工皮革、ビニロン、不織布、面ファスナー、

ポリエステル繊維の製造・販売

トレーディング

繊維製品、樹脂、化学品の輸出入・卸売

その他

エンジニアリング事業

役員(2022年6月30日現在)

代表取締役社長	川原 仁
代表取締役・専務執行役員	早瀬 博章
取締役会長	伊藤 正明
取締役・専務執行役員	佐野 義正
取締役・常務執行役員	多賀 敬治
取締役・常務執行役員	マティアス グトヴァイラー (Matthias Gutweiler)
取締役・常務執行役員	高井 信彦
取締役(社外取締役)	浜野 潤
取締役(社外取締役)	村田 啓子
取締役(社外取締役)	田中 聡
取締役(社外取締役)	井戸 清人
常勤監査役	中山 和夫
常勤監査役	上原 直哉
監査役(社外監査役)	永濱 光弘
監査役(社外監査役)	谷津 朋美
監査役(社外監査役)	小松 健次
常務執行役員	大村 章
常務執行役員	尾松 俊宏
常務執行役員	津軽 利紀
常務執行役員	藤波 智
執行役員	スティーヴン コックス (Stephen Cox)
執行役員	高野 浩一
執行役員	鈴木 一
執行役員	川原 孝春
執行役員	上山 冬雄
執行役員	渡邊 知行
執行役員	スティーヴン R. ショット (Stevan R. Schott)
執行役員	池森 洋二
執行役員	坂本 和繁
執行役員	大福 幸一
執行役員	藤原 純一
執行役員	大井 秀雄
執行役員	下 浩幸
執行役員	中村 吉伸
執行役員	井出 章子

- ③ 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。
2.この冊子に記載の()をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。
3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。
4.この冊子に記載したQRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。